

3

中学校の参考事例

指導計画例（中2）

学 期	各 科										道徳・総合的な学習の時間・特別活動		その他の活動	
	国 語	社 会	数 学	理 科	音 楽	美 術	保 健 体 育	技 術・家 庭	外 国 語	道 徳	総合的な学習の時間	特別活動		
1	<p>「読書の幅を広げよう―父のよくない―」</p> <p>○居眠りの言葉「要は、どんなやり方を選ぶべきか。」について、話し合いを通して自分の考えを深め、400～600字程度の作文を書くことができる。</p> <p>◆聖徳の言葉や題名について考えて、自分の考えを深めさせる。【もとめる】</p>			<p>「電線をくくり出さずにはどうしたらよいか」</p> <p>○コイルに磁石を出し入れする実験を行う。磁石が変化すると電流が流れることなどを見いだすとともに、電磁誘導の条件や、誘導電流の向きや強さを決め、電磁誘導を利用した電機が電磁誘導を利用していることを理解する。</p> <p>◆実験や考察を通して、科学技術の進展に先人の偉業があることを知り、主体的に学ぼうとする意欲をほぐくむ。【もとめる】</p>						<p>「Multi Plus 1 私の夢」</p> <p>○「将来の夢」について、聞いたり読んだりして理解する。既習事項を用いて、簡単な英文を書いたり話したりする。</p> <p>◆自分の将来についてめざせる意欲を高め、自己理解や他者理解を深めさせる。【もとめる】</p>		<p>「働くこと」</p> <p>○身証で働く人々の職業や仕事に対する考えや働くことへの関心を高める。</p> <p>◆身近で働く人の在り方生き方を求めようとする意欲を高める。【もとめる】</p>	<p>「先輩に学ぶ会」</p> <p>○社会で活躍する先輩や大学生の先輩の話を聞くことにより、夢や希望の生き方を考え、実現に向けて努力しようとする態度を育てる。</p> <p>◆先輩の夢を抱いた経験や、努力を重ねてきたことにより、自己実現に向けて努力しようとする意欲を高める。【もとめる】</p>	<p>委員会の活動</p> <p>○集団の一員としてよりよりに継続的に課題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。</p> <p>◆委員会活動を通して、自分の役割を自覚し責任を果たそうとする意欲をほぐくむ。【はたす】</p>
2					<p>「日本の伝統音楽の響きと風景―」</p> <p>○和楽器の響きと音色」を基に結び付け、イメージを十分に膨らませながら創作をする。</p> <p>◆創作活動を通して、楽器への興味や、主体的に取り組もうとする意欲をほぐくむ。【もとめる】</p>						<p>「働くことの意味を身につめよう」</p> <p>○「職場体験学習」での体験発表会を通して、それぞれの職業が社会の中で果たしている役割に気付かせ、働くことの意味を考える。</p> <p>◆集団や社会の一員として役割と責任を自覚させる。</p> <p>◆職場体験学習を通して、自分の生き方を考えさせる。【はたす】</p>	<p>「先輩に学ぶ会」</p> <p>○社会で活躍する先輩や大学生の先輩の話を聞くことにより、夢や希望の生き方を考え、実現に向けて努力しようとする態度を育てる。</p> <p>◆先輩の夢を抱いた経験や、努力を重ねてきたことにより、自己実現に向けて努力しようとする意欲を高める。【もとめる】</p>		
3													<p>「人々のために生きる」</p> <p>○働くことの意味を自覚し、連綿と社会や人のために福社に貢献しようとする心構えを育てる。</p> <p>◆道下医師の生き方について考える自己の在り方生き方について考える。【もとめる】</p>	

主題名 人々のために

資料名 われ、ここに生きる

第2学年

道徳の時間

〈本時のねらい〉

○働くことの意義を自覚し、進んで社会や人のために尽くし、公共の福祉に貢献しようとする心情を育てる。

志教育の視点

- ・道下医師の生き方について考えることを通して、自己の在り方生き方について考えさせる。

〈学習の流れ〉

1 職場体験を想起する。

- ・職場体験学習の感想、職場の方々からいただいた質問に対する回答を読み、働くことについてそのとき考えたことを想起する。

2 道下俊一医師の生き方について考える。

- 資料「われ、ここに生きる」を読み、考える。
- ・道下医師が霧多布で診療しながら考えていたことを推測する。
- ・道下医師が霧多布にとどまることを決心した気持ちを考える。

3 自分の生き方について考える。

- これからどんな生き方をしたいと思うか考える。
- ・ノートに記入し、自分の考えをまとめる。
- ・机間指導をしながら、生徒の考えを見取り、何人かに発表させる。

4 身近な働く人の話を聞く。

- 職場体験でお世話になった方々の話（録音）を聞く。
- ・地域のために働いている人や、社会貢献を考えている方々に事前に依頼しておく。
- ・身近な働く人の話に代えて、生徒作文を使うことも考えられる。

ポイント

- 霧多布に残るまでの道下医師の心の葛藤を考えさせることにより、自己と社会のかかわりを考え、社会へ貢献することの大切さやすばらしさに気付かせることが重要です。

ポイント

- 道下医師の生き方から、これからの自分の生き方について、自分の言葉で考えさせることが大切です。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・自己の在り方生き方を考えさせるために、考えをまとめたり、深めたりする方法を工夫する。

題材名

働くこと

第2学年

学級活動

〈本時のねらい〉

○身近で働く人々の職業や仕事に対する考え方などを知り、職業や働くことへの関心を高める。

も
と
め
る

志教育の視点

・身近で働く人の話から、自分の在り方生き方をもとめようとする気持ちを高める。

〈活動の流れ〉

1 働く人（ゲストティーチャー）の1日について知る。

- ゲストティーチャーとして、職種の異なる複数の方から、実際の仕事の様子や職業に対する思いを聞く。
- ・職場での1日について
 - ・それぞれの方の苦勞と生き甲斐について

ポイント

●保護者、地域の方等、生徒とかかわりのある身近な人の話が効果的です。多様な職種のゲストティーチャーに話してもらうことで、職業による違いに気付かせることができます。

2 働くことの意義について考える。

- ゲストティーチャーの話を参考にして、働くことの意義を考える。
- ・観点を明確にして考えをまとめる時間をとる。

3 働くことについて考えを交流する。

- ・意見交換を通して、多様な考え方があることや自分の生き方とかかわっていることに気が付く。
- ・グループで、自分の考えた働くことの意義について発表し、意見交流を行う。
- ・各グループにゲストティーチャーを配置し、適宜、質疑応答に加わってもらう。

ポイント

●将来の職業を決めることではなく、働く上で今から培うべきことについて考え、自分の考えをまとめさせます。ゲストティーチャーの感想を聞くことも効果的です。

4 授業の振り返りを行う。

- ・本時の授業を振り返り、働くことについて学んだことをまとめる。
- ・ゲストティーチャーから感想を話してもらう。

夢をはぐくみ志に高める手だて

・自分の在り方生き方を求めようとする気持ちを高めるために、身近で働く人の話を聞く場を設定する。

題材名

先輩に学ぶ会

第2学年

学年集会(学級活動)

〈本時のねらい〉

○社会で活躍する先輩や大学生の先輩の話聞くことにより、夢や希望をもち、将来の自分の生き方を考え、実現に向けて努力しようとする態度を育てる。

志教育の視点

- ・先輩方の夢を抱いた経緯や、志をもち続け、努力を重ねてきたことを知ることにより、夢を志に高め、自己実現に向けて努力しようとする気持ちをはぐくむ。

〈活動の流れ〉(2時間扱い)

- 1 先輩に学ぶ会の趣旨を知る。
 - ・先輩方を紹介し、本時への期待を高める。
- 2 先輩の話聞く。
 - (1) 大学生の先輩の話
 - ・中学生の頃の夢、自分が今の大学を選んだ理由、将来の夢
 - ・中学校時の進路選択で考えたこと
 - ・中学校、高校で進路実現に向けて努力したこと
 - ・中学生へのアドバイス
 - (2) 社会人の先輩の話
 - ・今の仕事について
 - ・中学生の頃の夢、中・高校で進路実現に向けて努力したこと
 - ・仕事をしているの大変さや喜び
 - ・これまでの経験から中学生へのアドバイス
- 3 各ブースに分かれ、先輩と意見交換をする。
 - 直接先輩と交流する。
 - ・4～6箇所程度のブースを設定し、交流する場を設定する。
 - ・時間帯を2部制にし、一人2箇所回れるようにする。
 - ・先輩は、代表で講話をする方2名と、各ブースで話をしてもらう方2～4名をお願いする。
- 4 感想発表
 - ・代表生徒が御礼も含め、感想発表を行う。
- 5 まとめ
 - ・各学級に戻って学習の振り返りを行う。

ポイント

- 先輩については、社会人、大学生など多様な選択肢を考えられるように配慮することが大切です。

ポイント

- 卒業生と交流することで、先輩の話を身近にとらえ、夢や志をもち、自分もこれから努力すればできるという自己実現の可能性を感じさせることができます。

ポイント

- 学級でのまとめの時間では、この活動を通して自分の考えの変容した点や、これからの生活について考えさせることが大切です。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・夢を志に高め、自己実現に向けて努力しようとする気持ちをはぐくむために、先輩の話聞いたり交流したりする場の設定や手法を工夫する。

もつめる

単元名

ふるさとの伝統・文化を伝えよう

第2学年（学校支援地域本部事業活用事例）

総合的な学習の時間

〈単元のねらい〉

- 地域の学習を通して、地域や伝統、文化への興味・関心を高めるとともに、ふるさとのよさを知り、郷土を大切にしたい意欲をもつ。
- 地域や伝統を守り伝える地域の方の生き方に触れ、自己の生き方を考える。

志教育の視点

- ・地域の人々とのかかわりを通して、自己を見つめさせ、地域の中での自分の果たすべき役割や責任について考えさせる。

〈本時の活動〉

1 ふるさと学習の意義、テーマについて考える。

- ふるさとにはどんな伝統や文化があるか、どんな達人がいるかを調べ、テーマについて考える。

2 地域の文化の伝承者へインタビューを行う。

- 地域の文化を伝承している方の思い、願いを聞く。

3 ふるさと学習の活動内容を考える。

- 何のためにどんな活動をするのかを話し合う。
 - ・学んだことを地域に発信するところまで見通して、活動内容を考えさせる。講座制とし、どんな講座が必要かも考える。
 - ・講座ごとの活動目標、活動の約束を考える。

4 地域の文化を体験する。

- 地域に伝わる伝統的活動や文化的活動を体験し、地域のよさを知る。
- ・地域の方々（学校支援ボランティア）を講師に招き、いくつかの講座に分かれ、体験活動を行う。
- ・発表会等で展示する作品を作成する。
- ・友達や後輩に地域の伝統や文化で伝えたい内容を考える。



5 学習の成果を地域に発信する。

- 文化祭や発表会等で地域の伝統や文化のよさ、伝承する人たちの思い、学んだことをまとめ発表する。
- ・地域を見つめ直すきっかけとなるよう、地域のよさを伝える。

ポイント

- ふるさと学習の意義、活動のねらいを明確にすることが、地域の中での自己の役割を自覚することにつながります。

ポイント

- 地域の方々の話や支援から、その人に生き方や考え方に触れることができます。

ポイント

- 自分たちが学んだ伝統や文化について地域に発信することが、地域に貢献する活動の一端を担うことになることを意識させることが大切です。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・地域の中で自分の果たすべき役割や責任を考えさせるために、学校支援ボランティアを活用し、交流活動や体験活動を含むふるさとを学ぶ場を設定する。

単元名

働くことの意義を見つめよう

第2学年

総合的な学習の時間

〈活動のねらい〉

- 「職場体験学習」での体験発表会を通して、それぞれの職業が社会の中で果たしている役割に気付き、働くことの意義を考える。

志教育の視点

- ・ 集団や社会の一員としての役割と責任を自覚させる。
- ・ 職場体験学習を通して、自分の生き方を考えさせる。

〈活動の流れ〉（2時間扱い）

1 「職場体験活動」を振り返る。

- 一人一人の学びを幾つかの観点からまとめる。

（視点の例）

- ・ 体験を通して学んだ仕事の楽しさ厳しさ
- ・ 職場の方の仕事に取り組む姿勢
- ・ 仕事や職業に対する思い 等

ポイント

- 感想発表にとどまらないよう視点を示してまとめさせましょう。

2 学年（学級）単位で発表会を行う。

- 異業種の職場体験をした生徒でグループ編成し、学習の成果を話し合う。

- ・ 互いの成果を比較することを通して、学びの内容を広げたり、成果を共有したりする。

ポイント

- 職場体験先からのメッセージについては、事前に十分な打合せを行い、生徒のこれからの生き方について期待することや社会の一員としての意識を高めることについて触れてもらうことが大切です。

3 職場体験先から寄せられたビデオレターやメッセージを見る。

- ビデオ撮影、メッセージから、自分たちの働き方が職場でどのように受け入れられていたのか知る。

4 「職場体験先へのお礼状」を書くとともに、「10年後の自分への手紙」などのテーマを決め、考えをまとめる。

- どんな社会人になりたいか、目標達成のためにどんな努力をしていくかなどのテーマに基づき、「職場体験学習」の成果を振り返る。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・ 役割と責任を自覚させ、自分の生き方を考えさせるために、生徒が互いの体験を共有する場を設定する。

まとめる

はたす

活動名

委員会活動

全学年

その他の活動

〈活動のねらい〉

○集団の一員としてよりよい学校生活づくりに継続的に参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

志教育の視点

・委員会活動を通して、自分の役割を自覚し責任を果たそうとする気持ちをはぐくむ。

〈活動の流れ〉

- 1 5月の反省を踏まえ、6月の目標について話し合う。
 - 生徒会目標に係る活動、委員会独自の活動を確認する。
 - 5月の反省、6月の活動内容を基に6月の目標を決める。
 - 委員会としての具体的な働きかけについて話し合い、6月の活動計画を立てる。
 - 個人の活動目標を設定する。
 - ・6月の目標を達成するために、各学級でどのような働きかけを行っていくか考え、活動目標を決める。
- 2 委員会の活動計画・個人の活動目標に基づいて実践に取り組む。
 - 学級ごとに委員会の目標や取組について説明をし、継続的に呼びかけや点検を行う。
- 3 活動の振り返りを行う。
 - 委員会活動振り返りシートを記入する。
 - ・6月の目標についての学級の達成度、自己評価等を振り返る。
 - 委員会の6月の目標についての反省、改善点を発表する。
 - ・学級ごとに目標に対する達成度について発表する。
 - ・よい取組や達成できなかった点について発表する。達成できなかった点については、その理由や改善点についても発表し、7月の活動に生かす。

ポイント

●PDCAサイクルを設定することにより、目標設定、計画、実践、評価・改善を意識して継続的に委員会活動に取りむことができるようにすることが大切です。

ポイント

●前月の反省を踏まえ、委員会として共通に取り組むべきことや学級での自分の役割を明確にすることで、活動意欲を高めていくことが大切です。また、継続的な取組には、生徒の頑張りを教師が認め励ますことも必要です。

夢をはぐくみ志に高める手だて

・自分の役割を自覚し責任を果たそうとする気持ちをはぐくむために、PDCAサイクルの設定や活動の振り返り等の手法を工夫する。

は
た
す

単元名 読書の幅を広げよう
父のようにはなりたくない

第2学年
国語科

〈本時のねらい〉

○吾郎の言葉「要は、どんなやり方を選ぶかさ。」について、話し合いを通して自分の考えを深め、400～600字程度の作文を書くことができる。

志教育の視点

- ・吾郎の言葉や題名について考えることを通して、自分の生き方について考えを深めさせる。

〈学習の流れ〉

1 親子の心情の変化を確認する。

- 前時までに学習した、場面の移り変わりや親子の心情の変化を確認する。
- ・ノートにまとめたキーワードを手がかりに簡潔に振り返る。

2 「要は、どんなやり方を選ぶかさ。」という吾郎の言葉に込められた思いを話し合う。

- 親子の心情の変化を踏まえ、吾郎の言葉の意味について意見交換をする（ペア学習から全体での意見交換へ）。
- ・意見交換の中で、新たに考えたことはノートに赤ペンでメモする。

ポイント

- 吾郎の言葉についての意見交換を通して「自分らしく生きること」「よりよく生きること」についても考えを深めることができるよう教師の働きかけが大切です。

3 意見交換を踏まえて、「父のようにはなりたくない」という題名について400～600字程度の作文を書く。

- 吾郎の言葉に込められた思いを踏まえ、なぜ「父のようにはなりたくない」という題名なのかについて、自分の考えをまとめる。
- 以下の視点を参考に自分の考えをまとめる。
 - ・描かれている親子の姿、会話から考えさせられたこと
 - ・自分の経験に基づいて、考えたこと

ポイント

- 視点を示すことで自分のこれまでの生活や家族とのかかわりを振り返り、自分のこれからの生き方について意識を高めていくことが大切です。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・題材を通して自分の生き方について考えを深めさせるために、話し合い活動や作文等の指導法を工夫する。

単元名

電流をつくり出すには どうしたらよいか

第2学年

理科

も
と
め
る

〈単元のねらい〉

○コイルに磁石を出し入れする実験を行い、コイル内部の磁界が変化するとき電流が流れることなどを見いだすとともに、電磁誘導の条件や、誘導電流の向きや強さを決める条件を説明できる。また、発電機が電磁誘導を利用したものであることを理解する。

志教育の視点

- ・ 実験や考察を通して、科学技術の進展に先人の偉業があることを知り、主体的に学ぼうとする意欲をはぐくむ。

〈単元の流れ〉

1 先人の偉業を知る。

- ・ 1831年ファラデーは、磁石とコイルで電流が流れることを実証したことを知らせる。
- ・ 演示実験で導入。

2 実験を通して、規則性を見つける。

- 実験を行い、その規則性について考える。
- ・ コイルに磁石を出し入れするときの速さ
- ・ コイルの巻数と流れる電流の関係

3 ファラデーの偉業について、どう受けとめたか発表する。

- ・ 乾電池も電源コンセントもなしで電流を流すことができる。
- ・ もし自分が1831年にいたら自分にもできたかも知れない。

4 ファラデーの偉業が身近なところで生かされている例を説明する。

- ・ 自転車のダイナモ、ダムの発電タービン等

ポイント

- 問題を見だし仮説を立てさせたり、実験において、主体的に学習に取り組み、自ら問題を解決する学び方を身に付けさせたりすることが大切です。

ポイント

- 学習したことが身近なところで生かされていることを実感させ、科学技術への興味・関心を一層高めるようにすることが大切です。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・ 主体的に学ぼうとする意欲をはぐくむために、先人の偉業に触れる学習を取り入れる。

題材名 日本の伝統音楽の楽しみ
和楽器の響きと風景

第2学年
音楽科

〈本時のねらい〉

○和楽器の響きと日本的な風景を「音色」を基に結び付け、イメージを十分に膨らませながら創作をする。

志教育の視点

- ・創作活動を通して、和楽器への興味を深め、主体的に伝統音楽に取り組もうとする気持ちをはぐくむ。

〈学習の流れ〉

- 1 和楽器の歴史や当時の生活と和楽器の関係を知る。
 - ・和楽器の歴史や当時の生活との関係等を理解させ、伝統音楽を学ぶ意義をつかませる。
- 2 和楽器の奏法について、主なものを試してみる。
 - ・和楽器の主な奏法について、「音色」を観点に鑑賞する。
 - ・気になった奏法を中心に、実際に試してみる。
 - ※和楽器の種類については、各学校の実態に応じて扱う。
- 3 和楽器の奏法と日本の風景を結び付けていく。
 - ・気に入った奏法で出る「音色」が、日本のどんな風景を醸し出しているかをイメージする。
 - ・日本の風景に合う「音色」が出る奏法を見つける。
- 4 自分たちのイメージする風景をテーマとした音楽を創作する。
 - ・どのような奏法を使うか、構成や分担を考える。
 - ・奏法から生まれる「音色」を基に、つながりや組み合わせを考えて創作する。
 - ・音の響き、余韻なども考えながら練習する。
- 5 創作した音楽に、日本の風景をイメージした題名を付けて発表する。
 - ・創作した曲や題名に込めた思いを発表する。
 - ・感じたことを発表したり、友達の感想を聞いたりする。

ポイント

- 和楽器の歴史を踏まえ、その音色を基に一人一人の思いや意図、イメージをもたせることが大切です。

ポイント

- 音色から風景を想像したり、風景から音色を想像したりすることで、和楽器の音色に対するイメージを広げさせましょう。

ポイント

- 日本の風景に関係した題名を付ける活動を通して、和楽器での創作活動への興味を一層高めることが大切です。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・和楽器への興味を深め、主体的に伝統音楽に取り組もうとする気持ちをはぐくむために、和楽器の歴史等を理解させるとともに、思いや意図を大切に創作活動を設定する。

単元名

Multi Plus 1 私の夢

第2学年

外国語科

かかわる

もとめる

〈単元のねらい〉

- 「将来の夢」について、聞いたり読んだりして理解する。
- 既習事項を用い、簡単な英文を書いたり話したりする。

志教育の視点

- ・自分の将来についての関心・意欲を高めさせる。
- ・発表を通して、自己理解や他者理解を深めさせる。

〈単元の流れ〉

1 将来の夢や職業について考え、「私の夢」(My Dream) というタイトルで簡単な英文を書く。

- ・「将来の夢」についての教科書のモデル文を読んだり、ALTの夢を聞いたりして、内容を理解する。
- ・「Tool Box」の語句を参考にして将来の夢や職業について簡単な英文を使って話す。
- ・「私の夢」(My Dream) というタイトルで簡単な英文を書く。

ポイント

- モデル文を読んだり、ALTの夢を聞いたりして、自分の将来について関心高めさせるようにしましょう。

2 「私の夢」(My Dream) について発表したり、友人の夢について聞いたりする。

- ・自分で書いた英文を基に、みんなの前でスピーチをする。
- ・友達の夢ややりたい職業について興味をもって聞く。

ポイント

- 進んでいる生徒には、単に夢に終わらせることなく「何のために」を盛り込ませましょう。さらに、そのために努力しなければならないことにも触れさせましょう。

3 スピーチを聞いて感じたことについてペアやグループで話し合う。

- ・質問したり、答えたりする。
- ・お互いに感想を述べ合う。

ポイント

- 友達の夢を聞いて感じたことを話し合い認め合うことの大切さを意識させましょう。

夢をはぐくみ志に高める手だて

- ・将来について考えさせるために、自分の夢や職業について簡単な英語で話したり、友達の夢を聞いたりする場を設定する。